



労働問題を考える



濱口桂一郎 『新しい労働社会』
(岩波新書、2009) をふまえて

ポイントと取り組み

3つのポイント

1. 賃金
2. 労働時間
3. 社会保障・社会維持発展システム

問題にどう取り組むか

1.賃金

- 賃金システムをどう構築するか
 - 同一労働同一賃金原則をどう考えるか
 - 非正規労働者の処遇をどうするか
 - 最低賃金のレベルをどうするか：労働者の生活保障
- 労働時間との兼ね合い
- 社会保障・社会維持発展システムとの兼ね合い

2. 労働時間

- 労働時間規制が必要
 - 仕事と生活の調和のために
 - 労働者の健康・安全のために

3. 社会保障・社会維持発展システム

- 社会保障：いざというときの安全のために
 - 医療・保険・年金・生活保護
- 社会を維持・発展させるためのシステム
 - 子育て・教育・住宅
 - 次の時代を担う世代を育てられない社会は衰退するしかない

問題にどう取り組むか

- ある要素だけを問題視して改革を押し進めると必ず副作用がでてくる
- 社会システム総体の様子を見ながら、副作用が最低限に収まるよう、漸進的に改革を進めようとする冷静な感覚が必要

目指すべき方向

- さまざまな利害関係者が参加し、交渉を通じて全体の利害を調整しつつ意思決定するシステム（ステークホルダー民主主義）の確立を目指すべきである